

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成30年06月18日

大分県知事 広瀬 勝貞 殿

提出者

住 所 佐伯市中村南町1番1号

氏 名 佐伯市長 田中 利明

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0972-22-3111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	佐伯終末処理場
事業場の所在地	佐伯市西浜5番27号
計画期間	平成30年4月1日から平成31年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	下水道事業
②事業の規模	発生汚泥量 1,817.32 t/年 (平成29年度実績)
③従業員数	9人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥→脱水→焼却→セメント資材へ

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	1,817.32 t	t
	(これまでに実施した取組) 排出量については、下水道の普及に併せて毎年増加する傾向にありますが、脱水供給濃度等の調整及び脱水時の高分子凝集剤の適正使用等することで、廃棄物汚泥の含水率を低下させて排出量の抑制に取り組んでいます。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	1,875.15 t	t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥濃度及び含水率の効率的な運用を図り、産業廃棄物発生量の抑制を行います。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全処理委託量	1,817.32 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥を脱水ケーキにして搬出し、焼却してセメント資源化（粘土代替品）できる委託業者に処理を委託している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全処理委託量	1,875.15 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 脱水ケーキを再利用することのできる産業廃棄物処理業者へ業務委託します。 ・ 委託先の処理業者には定期的に現地確認を実施します。		
※事務処理欄			

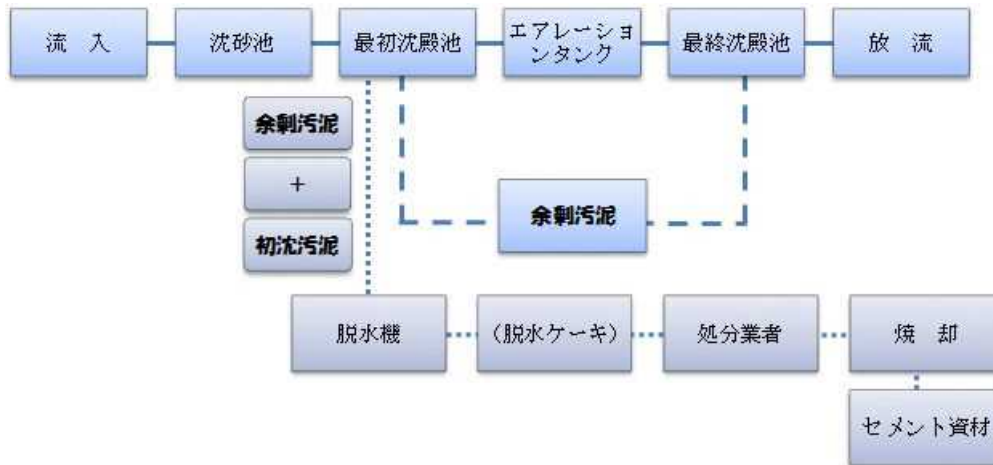
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画 (別紙)

1 事業概要

フローシート



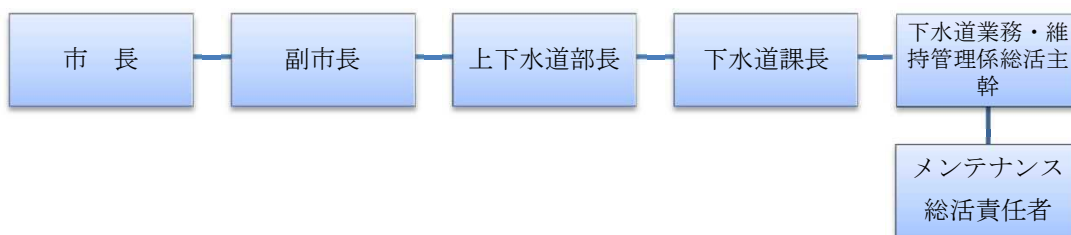
製造概要…下水処理

処 理 量	H24(実績)	H25(実績)	H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(予定)
発生汚泥ケーキ量	1,652	1,586	1,544	1,751t	1,924t	1,817t	1,875t

*発生汚泥ケーキ量=年間発生量・単位トン

2 策定事項

(1) 産業廃棄物の処理に係る管理体制



(2) 産業廃棄物

ア 法令の遵守等

産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令、その他の規則を遵守します。

イ 排出事業者の処理責任

排出する産業廃棄物の処分は、現在、その全量を処理業者に委託しており、収集運搬から処分に至るまで、状況を適宜追跡調査することでの確な管理に努めます。

ウ 教育・研修等

廃棄物の処理に関する留意事項を整理し、作業員に定期的教育・研修等を行います。

エ 情報公開

廃棄物処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生や処理状況について情報の公開に努めます。

(3) 環境全般

環境関連の法令等を遵守し、地球温暖化防止のため、省エネルギーとリサイクルに努めます。

3 廃棄物の排出の抑制に関する事項

(1) 廃棄物処理の現状

ア 当処理場から排出される脱水汚泥ケーキは、平成29年度実績1,817.32トン（平均含水率80.40%）

で下水道の普及に併せて毎年増加しておりますが、現状処理設備での対策として脱水供給濃度等の調整及び含水率の変化により汚泥量も減少しました。

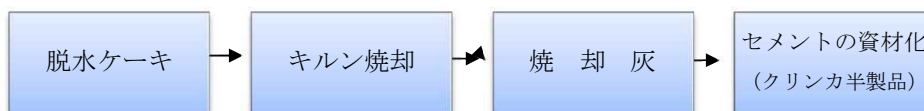
しかし、未整備区域の整備による供用開始区域の拡大に伴い年々増加の傾向にあります。

なお、水質データにおける脱水汚泥の分析結果については下表（平成28年度）のとおり。

含有量試験（H29年度）			溶出試験（H29年度）		
項目	8月	2月	項目	8月	2月
水銀	0.34mg/kg	0.20mg/kg	アルキル水銀化合物	ND 0.0005未満	ND 0.0005未満
カドミウム	0.60mg/kg	0.30mg/kg	水銀またはその化合物	0.0005未満	0.0005未満
ひ素	5.9mg/kg	4.1mg/kg	カドミウムまたはその化合物	0.001未満	0.001未満
硫黄	19,000mg/kg	20,000mg/kg	鉛またはその化合物	0.005未満	0.005未満
含水率	81.4%	80.5%	有機リン化合物	0.1未満	0.1未満
			六価クロム化合物	0.05未満	0.05未満
			ひ素またはその化合物	0.010未満	0.008未満
			シアン化合物	0.1未満	0.1未満
			P C B	0.0005未満	0.0005未満

4 産業廃棄物の再生利用に関する事項

再利用処理工程



* 排出する脱水汚泥ケーキの処分については、すべて産業廃棄物処理業者へ処理を委託しており、焼成工程等を経てセメント原料として再利用しています。